

農業振興公社だより

角田市の農業は昇り龍のごとく



理事長 黒須 貫



謹んで新春のお喜びを申し上げます。「辰年」は万物が活力旺盛になり大きく成長し、形が整う年と言われています。また、辰＝龍は大自然の躍動を象徴し、農作物に欠かせない天や雨を司る龍神として信仰されます。ことさら農業にとって縁起の良い年でもあります。

新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ人流や地域コミュニティが徐々に活性化しつつあり、都市部の外食産業なども復活し、米余りの話題は聞かれなくなりました。一方、世界情勢の不安定化で資材や燃油の価格が高止まるなか、気候

よる地球沸騰化が当地にも影響を及ぼすなど、世界規模の食糧危機が懸念される状況です。国は総合的な食糧安全保障の観点から食料・農業・農村基本法の見直しを行います。今や農業は持続可能な社会を支える最重要産業です。

「角田市の農業を元気に、そして持続可能なものに！」当社の役割は非常に重要になってきております。特に担い手（後継者）の確保と育成を最重要課題として、本年も取り組んでまいります。これまでも新規就農対策の総合窓口としての役割を担い、相談対応や、あぶくま農学校「土の塾」などの農業体験を通して新規就農者の増加



就農相談会の様子

◆ 発行 ◆

(公社) 角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一
電話 (0224) 63-2328
FAX (0224) 61-1521

URL <http://www.kakunou.or.jp/>

E-mail kakuda@kakunou.or.jp

を凶ってまいりましたが、一歩踏み込んで昨秋から始めた「新規就農相談会」に手ごたえを感じ、今後は市内外、東京でもおこなう予定です。

また、後継者がいない方向けに第三者承継の支援も始めております。後継者が欲しい方と、資金をかせずに農業を始めた方とのマッチング事業で、今後、公社会員や農協の生産者部会の皆様にもお声がけしてまいります。

加えて、地域おこし協力隊制度も活用してまいります。現在角田市では梨園復旧のために地域おこし協力隊が活動しておりますが、順調に事業が進んでおり、3年間の任期後は梨農家として就農する予定です。国の交付



吉川地域おこし協力隊員

税で活動できる制度なので、任期中は、農業支援員として各農家で働きながら農業を学び就農を目指す流れを作りたいと考えています。

また、多方面から親元就農の重要性についてお話をいただいておりますので、こちらの対応も含めて、担い手確保の各事業を引き続き、力を入れて実施してまいります。

その他にもあぶくま農学校事業の土の塾や風の塾、青色申告会の運営など、農業者の育成を目的とした事業、コロナ禍以前のような活発さを取り戻しつつある農業交流体験事業など、各事業の充実を図り、角田市農業の活性化のために、今年も公社職員一同、尽力してまいります。

最後に、「ふたたび人づくり」を宣言してから3年目。若い2名の職員も仕事に板についてきて、さらに農家の皆さんの活躍を支えていけるよう頑張っています。角田市の農業が「昇り龍」のように元気になることを目指して！



あぶくま農学校農業体験学習「秋」各団体で稲刈り

〔北郷小学校体験学習〕

9月25日(月)北郷小学校では、5年生28名による稲刈り体験学習が開催されました。連日続いた残暑も落ち着き、児童たちにとって作業しやすい気候になりました。JAの青年部から刈り方を指導された児童たちは、自分の半分ほどの背丈まで成長した稲を、慣れない手つきでしたが、一生懸命刈り取っていました。

刈取り終了後、コンバインを使った脱穀と、はせ掛けを行い、児童たちにはあぶくま農学校の修了証書が授与され体験が終了しました。



北郷小学校稲刈り体験の様子

〔金津小学校区農業体験交流〕

9月30日(土)旧枝野小学校近くにある金津小学校校区交流田にて、下目黒小学校の有志36名と金津小学校児童希望者25名による稲刈り体験交流事業が行われました。

当日は午後から雨の予報でしたが、児童の強い気持ちを通じたおかげか天候が崩れることなく稲刈りを行う事ができました。

稲は首を垂れる程実り、刈り取った稲を運ぶ際には、重さで転んでしまう姿も見られるなど、児童の皆さんは元気一杯に稲刈りを体験していました。



金津小学校区稲刈り体験交流の様子

〔角田絆交流事業〕

9月30日(土)北郷地区交流田では、緑ヶ丘小学校児童及び保護者と北郷小学校の有志合わせて43名で、角田絆交流事業の稲刈り体験が行われました。北郷地区交流田では、春先に植えた苗が何倍にも成長した姿で、児童たちを迎えました。JAの青年部より鎌の取り扱いについて説明を受けた児童たちは、始めは緊張していましたが、慣れてくると危ない様子で、次々と稲を刈り取っていました。



角田絆交流事業の様子

〔西根地区農業体験交流事業〕

10月14日(土)西根地区田んぼアクト交流田にて、月光原小学校児童及び保護者と北郷小学校児童及び北角田中学校生徒の有志合わせて45名で、稲刈り体験交流事業が行われました。

当日は天候に恵まれましたが、前日の雨で少しぬかるんだ地面に足を取られ悪戦苦闘しながらの稲刈りでしたが、カエルを見付けると児童たちは大はしゃぎ、とても賑やかな稲刈り体験となりました。



西根地区農業体験交流事業の様子

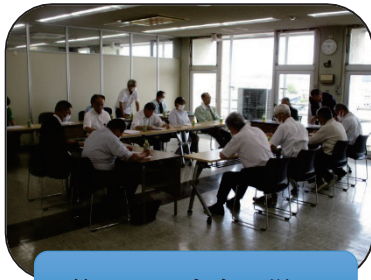
第 3 回 公社理事会

令和 5 年 9 月 26 日（火）に第 3 回理事会を開催しました。今回は、理事長及び副理事長の活動報告の他、事務局から新規就農対策の方向性について報告がありました。

公社としては、今年度の重点項目として新規就農者対策を掲げており、これからの活動概要をまとめたものです。大きくは 3 点で、

- ① 市内外での新規就農相談会の開催
- ② 第三者承継の支援
- ③ 地域おこし協力隊制度の活用になります。

理事の方々からは、「道の駅を活用して定期的に就農相談や市の農業の PR をして欲しい」「新規就農対策に併せて、あぶくま農学校の事業の充実化をして欲しい」など、今後の公社事業について、活発な意見のやり取りが行われました。



第 3 回理事会の様子

第 21 回あぶくま農学校 土の塾 開催

あぶくま農学校では、角田の風土を肌で感じる、角田を知っていただく機会を設けることを目的に、農作業体験（通称「土の塾」）を行っております。

今回の「土の塾」は、8 月 22 日（火）から 29 日（火）までの 7 泊 8 日で開催し、東京農業大学の学生 2 名が参加されました。

初日は開塾式を行った後、江尻排水機場、道の駅かくた等の市内施設見学を行いました。江尻排水機場では、令和元年の水害や田んぼの用水に関して、先人からの取り組みや現在の状況について説明を受けました。

2 日目からは農作業体験が始まり、稲作農家の面川氏、梨農家の吉川氏、野菜農家の三浦氏のご協力の元、田畑の管理や収穫・出荷等の体験を行いました。

最終日には閉塾式を行い、参加者の感想発表では「普段見ることがない収穫から出荷までの流れを体験できた」「農家と地域の方の繋がりの大切さを学べた」などの感想をいただきました。



土地改良区見学の様子



開塾式の様子



記念写真



閉塾式の様子



農作業体験の様子

「あぶくま農学校風の塾」 ふるさと納税研修会

あぶくま農学校「風の塾」では、11月30日(木) 18時から角田市役所にて、若手農業者と、農業法人等の販路拡大を目的とした、ふるさと納税研修会を行いました。

研修会には7名の方が参加され、株式会社 JTBふるさと開発事業部 角田営業所から中田営業担当課長を講師にお招きし、研修を行いました。

研修会では、ふるさと納税の仕組み、他市町村の事例、実際に活用するまでの流れ等を詳しく説明していただき、参加された皆さんは自身にあった活用方法を模索し質問するなど、熱心に受講されていました。



研修会の様子

「目黒区商工まつり」 (リバーサイドフェスティバル)

あぶくま農学校では、消費者と生産者が交流し、角田市のPR及び販売促進をするための活動(通称「出前塾」)を行っております。

今回の出前塾では、11月18日(土)、19日(日)の2日間で開催された、第60回目目黒区商工まつり(リバーサイドフェスティバル)に、角田市の農業者4名と公社職員4名の計8名で参加しました。

角田市としてはコロナ禍の影響から令和元年以来四年ぶりの参加となりました。イベントでは目黒区の飲食店と企業の他、7自治体が出店するなど多くのブースが立ち並びました。角田市のブースでは農業者が出品した、コメやホウレン草、長芋等の野菜類、カレーや梅干し等の加工品の計25品目を販売しました。

数年ぶりの規模縮小や飲食の制限を設けない開催ということもあり、角田市のブースには多くの方に来ていただきました。中には角田の小学校と田植えや稲刈りで交流している目黒区の方々も訪れ、「角田のおコメ美味しかった」との感想をいただきました。2日目には「前日に買った

野菜おいしかったです」等の感想もいただきました。

角田市の農産物については目黒区の皆様が待ち望んでいるということもあるため、これからもこういった消費者の方々との交流ができる場に農業者の皆様と共に参加してまいります



リバーサイドフェスティバルの様子



リバーサイドフェスティバルの様子

農政懇談会 黒須市長と農政を語る

角田市農業経営者会議（森谷 茂 会長・会員 47 名）は、11 月 28 日（火） 仙南シンケンフアクトリー・セミナ ールームにおいて角田地域担い手育 成総合支援協議会との共催事業とし て黒須角田市長をお招きし、「農政懇 談会」を開催しました。

この懇談会は、当会の事業活動の 一環として開催しているもので、会 員及び若手農業者の皆さんと、角田 市からは黒須市長のほか小川農林振 興課長にも出席いただきました。

三浦副会長、黒須市長の挨拶後、 市長より、角田市の今後の農政につ いてをテーマに、「多様な担い手が希 望を持てる、やる気の出てる農業 ビジョンについて、担い手確保のた めの新規就農相談会の開催や第三者 承継の支援について、環境に配慮し た生産体系の確立のための資源循環 型農業推進事業について、道の駅の 売り場面積の拡大について」のお話 をいただきました。

参加者からは使用可能な補助事業、 親元就農への助成等についての質問 がでるなど、活発な意見交換がなさ

れ懇談会は終了しました。その後、会場を移し黒須市長を交 えての懇親会が行われ、懇談会に引 き続き活発な意見交換が行われまし た。



農政懇談会の様子

第1回就農・移住フェア

11 月 23 日（木）道の駅かくだにて、 角田市農業振興公社と、道の駅かく だとの共催で、新規就農・移住を考 えている方を対象に「第1回就農・ 移住フェア」を開催しました。角田 市農業振興公社は、就農相談を担当 し、当日は 5 名の相談者にお越しい ただきました。

就農相談ブースでは、相談者から、 希望農地・作物等の話を聞き取り、 その方に合わせた就農までの流れと 支援制度についての説明を行いました。

イベント参加者からは、「今まで、 就農の相談をしたかったが、誰に相 談して良いかわからず、このような イベントがあつて良かった」という 声があり、新規就農を検討されてい る方に向けた案内や、今回のような イベント等の充実が今後の課題とし てわかりました。

今後も就農相談会を企画・開催し、 SNS 等を活用してより多くの相 談者を呼び込み、新規就農者の確保 に繋げていきたいと考えております。



就農・移住フェアの様子



宮城県角田市

新規就農者募集

角田市は、豊かな田園風景が広がり、東北地方ですが

比較的温暖な気候で、積雪も少なく住みやすいことが特徴です。

農業者としての第一歩を角田市で踏み出してみませんか？

角田市農業振興公社では、随時相談対応を行っています！

農業に興味ある方は、お気軽にお問い合わせください！

問い合わせ

〒981-1505

宮城県角田市角田字大坊 41 番地

公益社団法人 角田市農業振興公社

電話：(0224) -63-2328

FAX：(0224) -61-1521



あぶくま農学校